【概 要】outline　粟田口walk行程 & 謡曲「小鍛冶」に謡われる粟田口鍛冶伝承

鹿ケ谷から若王山を登って　新島襄の墓に参って、幻想的な駒ヶ滝から
南禅寺へ出て、南禅寺の境内から謡曲「小鍛冶」の鍛冶伝承地へ
謡曲「小鍛冶」に謡われた刀匠三条宗近　鍛冶伝承の地
三条通　旧東海道の京口　粟田口を訪ねました

◎　若王子山山上同志社創立者新島襄の墓所から
　　幻想的な山中　駒ヶ滝の行場から南禅寺へ
◎　謡曲「小鍛冶」に謡われる鍛冶伝承地粟田口walk

若王子新島襄の墓所への登り口は博古館のすぐ東、
若王子神社のそばでよく知るのですが、ここから東山の山中へ登った入ことなし。
粟田口に住む刀工(小鍛冶)三条宗近が夢枕に立った信仰する稲荷明神の狐姿の化身を
相槌に　名刀「子狐丸」を打ち上げたという謡曲「小鍛冶」の伝承地「粟田口」。
何度も通るのですが、先日TVで鍛冶神社・合槌神社などが今も残っているとると知って,
三条宗近の鍛冶屋敷粟田口の家並の中をゆっくり歩いてみたくなりました。

この謡曲小鍛冶に謡われた稲荷明神の化身を相槌に名刀「子狐丸」を打つ伝承はすぐ東へ
山越した隣の山科盆地の花山稲荷神社にも残っている。
ふたつの伝承の出どころはおそらく同じ。
でも　伝承は平安時代末　東山を挟む2つの街　同じ京都とはいえ違う町。なにかありそうと。
この京都粟田口からの東山越　山科・近江への道は北側は東山如意が岳(大文字山)の南山麓で、
この一帯は古代の鉄鉱石資源帯そして如意が岳南製鉄遺跡群が点在する地域。
そして粟田口は交通の東海道の京口であり、でにぎわう鍛冶屋敷町。
稲荷信仰と鍛冶信仰とが合体して生まれた「小鍛冶」の伝承。
なぜ粟田口の刀匠鍛冶たちが稲荷山信仰なのか? との疑問も頭をよぎる。
西の伏見側から稲荷山から大勢の人たちが登るのが現代の参詣道。
でも伏見側から登ると今も稲荷明神が現れそうな静かな心霊スポットを感じさせる古い参詣道である。
鍛冶伝承を頭に描きつつ、しっかり歩いたことのない粟田口界隈を初めて歩きました。

粟田口は東山を越えて京都へ入る坂道 旧東海道
三条通の東側蹴上から西の神宮道までの界隈
かつてこの界隈には数多くの鍛冶職・刀鍛冶が住
まいし、彼らが信仰する稲荷信仰とが融合した
鍛冶伝承が生まれたという。

謡曲「小鍛冶」に謡われるの鍛冶伝承地

東山越 粟田口 & 山科・稲荷山

伝承地・鍛冶伝承の概 要

謡曲「小鍛冶」に謡われるの鍛冶伝承と伝承地walk
東山越 粟田口周辺MAP

謡曲「小鍛冶」に謡われるの鍛冶伝承地
粟田口周辺 walking MAP

三条宗近が稲荷明神の化身とともに作刀する謡曲「小鍛冶」

古代の製鉄関連地の刀鍛冶の伝説と稲荷信仰とが合体してできた曲といわれる

謡曲「小鍛冶」と三条宗近の名刀「小狐丸」作刀伝承

京都三条粟田口粟田鍛冶町神社 ＆ 山科花山稲荷神社

京都粟田口に住む刀工(小鍛冶)三条宗近が夢枕に立った信仰する稲荷明神の狐姿の化身を相槌に名刀「子狐丸」を打ち上げたという謡曲「小鍛冶」

この伝承が刀工三条宗近が住んだという京都三条粟田口や稲荷伝承が数多く残る山科にある。
すぐ北に連なる東山如意ヶ岳周辺は古代の鉄鉱石資源帯　その南西の麓粟田口には数多くの陶工たちの鍛冶屋敷があり、また　稲荷山が見晴らせる南麓の山科には古代の製鉄遺跡が数多く残る。

謡曲「小鍛冶」の舞台として広く知られる京都粟田口
三条宗近の名刀「小狐丸」作刀伝承　京都三条粟田口粟田鍛冶町神社

夢のお告げを受けた一条天皇（980～1011）の命により、勅使の橘道成は、刀匠として名高い三條小鍛冶宗近のもとを訪れ、剱を打つよう命じます。
宗近は、自分と同様の力を持った相槌を打つ者がおらず、打ち切れないと訴えますが、聞き入れられず、進退きわまった宗近は氏神の稲荷明神に助けを求めて参詣。そこで不思議な童子に声をかけられ、少年は宗近を励まし、相槌を勤めようと約束して稲荷山に消えていきました。
家に帰った宗近が身支度をすませて鍛冶壇に上がり、礼拝していると稲荷明神のご神体が狐の精霊の姿で現れ、「相槌を勤める」と告げる。先ほどの少年は、稲荷明神の化身だった。
明神の相槌を得た宗近は、無事に剱を鍛え上げました。
こうして表には「小鍛冶宗近」の銘、裏にはご神体が弟子を勤めた証の「小狐」の銘という、ふたつの銘が刻まれた名剣「小狐丸」が出来上がった。
明神は小狐丸を勅使に捧げた後、雲に乗って稲荷の峯に帰っていきました。

◎　製鉄に従事するものを大鍛冶というのに対し，刀鍛冶を小鍛冶と称していました。
京都三条通の粟田口は古くからの刀鍛冶の居住地。
稲荷神社の祭神は素盞嗚尊、大己貴命で、製鉄・鍛冶と関係深い神、
刀工たちの氏神として信仰されていたという。
また、鍛治炉の鞴には山科稲荷山の土を用いていたとの伝承もある。

◎　宗近は実在の平安中期の刀匠ですが、生没年不詳ですが、永延（987-989）の頃
京都三条に住したと伝え，小狐丸をはじめ幾多の刀剣を造ったという。
現存するものとして三日月宗近などがあります。
また、祇園祭の長刀鉾の長刀は宗近が奉納したものとされています。
作刀にこのころの年紀のあるものは皆無であり、その他の確証もなく、ほとんど伝説的に扱われている。　代表作として伝えられる国宝「三日月宗近」があります。

謡曲「小鍛冶」の舞台京都粟田口に残る鍛冶伝承地の痕跡

◎　三条小鍛冶宗近之古跡の石碑　　1917年建立
東山区粟田口鍛冶町（仏光寺本廟内）
拾遺都名所図会によると、佛光寺本廟境内に
刀剣を鋳るときに用いた井水があったという

◎　**合槌稲荷神社**　創建年代不明
粟田口中ノ町、粟田神社の向かいの三条通りに面した場所にある。　三条通り沿いの鳥居から隣接する民家の外壁に沿って細い参道が続いている。
境内には**正一位合槌稲荷大明神**を祀る祠があり、この祠は平安時代の刀匠、三条小鍛冶宗近が稲荷大社に祈願し、狐とともに宝剣小狐丸を打ちあげたという逸話の舞台ともいう。

◎　**鍛冶神社**　粟田神社参道中腹東側に位置する末社
祭神は鍛冶神天目一箇神と刀工三条小鍛冶宗近・粟田口藤四郎吉光。刀鍛冶発祥の地とも呼ばれる粟田口の数多くの刀工を顕彰するため創建されたという刃物、鍛冶及び勝運、開運の社

◎　**粟田神社**
清和天皇貞観十八（876）年清和天皇の勅により、全国の諸神に「国家と民の安全を祈願」。
勅使従五位上出羽守藤原興世が感神院祇園社（今の八坂神社）に祈願。
満願の夜、興世の枕元に一人の老翁が立ち、「汝すぐ天皇に伝えよ。叡慮を痛められること天に通じたる。我を祀れば、必ず国家と民は安全なり。」と告げられた。
老翁は「我は大己貴神なり。祇園の東北に清き処あり。其の地は昔、牛頭天王（ゴズテンノウ=スサノオノミコト）に縁ある地である。其処に我を祀れ。」と言い消えた。
勅命により直ちに此の地に社を建てて御神霊をお祀りしたのが始まりであるという。。
また一説には、孝昭天皇の分かれである粟田氏が此の地を治めていた時に氏神として当社を創建とも云われる。
八坂神社と同じ素盞嗚尊、大己貴命を祭神とするところから感神院新宮とよばれ、八坂神社とも関係が深い。 旧社名は、感神院新宮・粟田天王宮。明治になり粟田神社と改称された。
詳細不明なるも、そのルーツに鍛冶伝承地との結びつきが見える。
京の七口の一つ粟田口に鎮座し、この地の氏神様として、古くから旅立ち守護の神として崇敬を集め、現在でも旅行に際し絵馬を奉納したり、お守りを買い求める人がいる。
境内参道脇には鍛冶神社　直ぐ北には合槌神社があり、いずれも粟田神社の末社。詳細不明

◎　**粟田口鍛冶町**　この地に数多くの刀工・鍛冶屋敷があったことを町名に残している

◆ 古代の鍛冶伝承・稲荷伝承の残る京都山科に坂上田村麻呂の墓を訪ねる

●坂上田村麻呂墓 ●西野山山麓の鍛冶伝承地 花山稲荷神社 ●稲荷伝承の折上稲荷

https://www.infokkkna.com/ironroad/2016htm/iron12/1607nishinoyama00.htm

◆ 京都山科に古代のたたら跡 如意ケ岳南製鉄遺跡群を訪ねる 2013.8.26

https://www.infokkkna.com/ironroad/2013htm/iron9/1309yamashina00.htm

◆ 稲荷山降臨伝承の三ヶ峰から伏見稲荷大社へ 2016.9.13.

https://www.infokkkna.com/ironroad/2016htm/iron12/1610inariyama00.htm

京都山科に残る稲荷信仰と結びついた刀鍛冶の伝説

謡曲「小鍛冶」のもととなった山科花山稲荷の名刀「小狐丸」の伝承

名刀工三条小鍛冶宗近の相槌は稲荷大明神

山科盆地の北部　大文字山から比叡山へと連なる山並みの山中には鉄鉱石があり、そこから山科盆地を流れ下る山科川はかつて砂鉄の産地だったといい、山麓には如意ヶ岳南製鉄遺跡群と呼ばれる古代たたら跡が点在する。 また、 この山科盆地は天智天皇の御陵に象徴される古代王城の地でもあった。
以前　この山科盆地北部のたたら跡を訪ねた時に、この地にも　古い鍛冶伝承が残っていると思いながら、よう見つけなかった。

今回　西野山の坂上田村麻呂の墓を訪れる機会に西野山周辺を歩こうと地下鉄　椥辻駅へ降り立ち、駅の地下通路の壁のタイルに上記した山科の鍛冶伝説を伝えるタイルをみつけ、一緒に訪ねてきました。

山科花山稲荷に伝わる名刀「小狐丸」の伝承

ある夜、一条天皇（980～1011年）が不思議な夢を見られて、当時名工として知られた三条の小鍛冶宗近に御剣を打つことを命ずる為に、橘道成を勅使として遣わされました。
宗近は宣旨を承りはしたものの、一人では御剣を打つことが出来ません。相槌に優れた者が居なくて困った宗近は、神にすがるより仕方ないと思い、氏神である稲荷明神に祈願のために出かけます。
すると一人の童子が現れて、不思議にもその童子は既に勅命を知っており、「君の恵みによって御剣は、必ず成就するであろう」と安心させます。そして、和漢の銘剣の威徳や故事を述べ、特に日本武尊の草薙剣の物語を詳しく語って聞かせ、「通力の身を変じて力を添えよう」と言って、稲荷山に消えていきます。

宗近は屋敷に戻って、しめ縄を張った壇をしつらえ、童子の教えのままに剣を打つ支度を調えて、祝詞を唱えて待ち構えていると、稲荷明神からの使いの狐が現れて、相槌となって御剣を打つのを手伝ってくれたのでした。
やがて御剣は完成し、表に小鍛冶宗近、裏には小狐と銘を入れ、勅使に捧げると、狐は再び稲荷山に帰っていく。

三条宗近が稲荷明神の化身とともに作刀する謡曲「小鍛冶」

謡曲「小鍛冶」と三条宗近の名刀「小狐丸」作刀伝承

京都三条粟田口粟田鍛冶町神社 ＆ 山科花山稲荷神社

京都粟田口に住む刀工(小鍛冶)三条宗近が夢枕に立った信仰する稲荷明神の狐姿の化身を相槌に名刀「子狐丸」を打ち上げたという謡曲「小鍛冶」

この伝承が刀工三条宗近が住んだという京都三条粟田口や稲荷伝承が数多く残る山科にある。

北に連なる東山如意ヶ岳周辺は古代の鉄鉱石資源帯　南西の麓粟田口には数多くの陶工たちの鍛冶屋敷があり、また　稲荷山が見晴らせる南麓の山科には古代の製鉄遺跡が数多く残る。

古代の製鉄関連地の刀鍛冶の伝説と稲荷信仰とが合体してできた曲といわれる